

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.
123
2021 Nov.

特集1

私たちが考える多様性とは？

特集2 祝 紫綬褒章受章記念インタビュー

中山 敬一 九州大学 主幹教授

「指定国立大学法人」に指定



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学広報室

TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会

TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会

TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。



今津中田コスモス広場にて

「指定国立大学法人」に指定

九州大学は、2021年11月22日付けで文部科学大臣より「指定国立大学法人」の指定を受けました。指定国立大学法人は、国際的な競争環境の中で、世界の有力大学と伍していくことが求められ、社会や経済の発展に貢献する取組の具体的成果を積極的に発信し、国立大学改革の推進役としての役割を果たすことが期待されています。

本学は、「総合知で社会変革を牽引する大学」を目指す姿として掲げ、その実現に向けて自治体や企業をはじめとする多様なステークホルダーの皆様と協働し、様々な取組を実施してまいります。

次号の九大広報では、関連する特集記事を掲載予定です。

CONTENTS

- 03 [特集1] 私たちが考える多様性とは?
- 07 地域とつながる九大生
- 09 現役九大生 >>> 卒業生インタビュー
- 11 [躍動] 第74回 九大祭実行委員会
- 13 世界から九大へ 九大から世界へ
- 15 [特集2] 祝 紫綬褒章受章記念インタビュー 中山 敬一 九州大学 主幹教授
- 18 [Museum Report] 箱崎だより ~工学系資料開示室の標本資料~ 「技術者の遊び心」
- 19 九州大学基金 42
- 21 同窓会だより

※記者会見レポート、KYUDAI Topicsは掲載を終了させていただきました。

表紙「いきさん展望台から糸島半島を望む」

- 撮影場所/いきさん展望台
- 撮影日時/2021年10月29日(金)

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.123 / 2021 Nov.

■編集・発行:九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744
 ■TEL:092-802-2130 FAX:092-802-2139
 ■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
 ■Webサイト:https://www.kyushu-u.ac.jp/

■印刷:凸版印刷株式会社
 ■編集協力・取材:永井直美
 ■撮影:スタジオ サラ
 ■デザイン:株式会社ライトブレイン

◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
 ◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
 ◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

私たちが考える 多様性とは？

九州大学では、多様で異なる人々が自分らしく過ごせるキャンパスづくりに取り組んでいます。今回、芸術工学研究院の中村美亜准教授と学部生2人が、多様な人たちが共生する社会について語り合いました。

この取材は、2021年10月12日、九州大学伊都キャンパス イースト1号館9階の石ヶ原古墳跡展望展示室で行いました。

無理にわかろうとしない。あいまいさも大事。

中村 弥紅さんはアクセシビリティ・ピアサポーター、Askaさんは九大セクマイサークルに所属していらつしやるそうですね。弥紅さんはなぜピアサポーターに？

弥紅 私は3年生の後期に特別支援学校や就労支援施設を訪問する機会があり、そのとき初めて障害は目に見えるものだけではないことに気付きました。それまでは、目に見える障害を持つ人だけを障害者として短絡的にとらえていたんです。このまま色々な障害を抱えた人たちのことを何も知らないまま社会に出ていいのかと思うようになり、3年生から活動を始めました。中村 ピアサポーターを始めて障害者への認識が変わった？

弥紅 障害があってもなくても、同じ人間であることに変わりないと思うようになりました。一緒にいるようになって、色々な特性があるのになって感じるようになったんです。

Aska 自分はどちらかというと、「みんな違う」という前提に立っているので、「みんな同じ」という考え方もあるのだなと思いました。

中村 障害者、セクシユアルマイノリティなど関係なく、全ての人が違うという意味かな？

Aska はい。「わかりあえない」というところからスタートしたいなと思っています。

中村 どうしてそう思うようになったんです？

Aska 九大セクマイサークルarcusでは、参加した人にジェンダー・アイデンティティを聞かないんです。話すのが難しかったり、自分でも説明できないものだったりするから。そうした中で、相手のことをわかってほしいと思うよりも、「よくわからないな」と思いながら話すほうが、相手に嫌な思いをさせないかもしれないと思うようになったんです。

中村 私も中学生くらいの頃、他の人と自分が違うところが気になって先に進めなかったことがありました。両親に話すと「人と人が分かり合えないのは当たり前だ！」「いやいや分かり合える！」ってそれぞれ逆のことを言っていて、すごく困ったことを思い出しました(笑)。その後大人になって、分かり合えないことも悲しいことじゃないのかな、と思うようになりました。違う人同士が分かり合えない中でも一体感がもてるってすごいことだっけ。

弥紅 友人たちと色の定義について考えたとき、みんな定義する範囲が違って、私が緑と思った色を友人は青と定義していました。考え方や見え方は人によって異なるし、正解がないところなので、分かり合えないところから始まるのもいいなって感じます。

中村 無理に分かろうとしないでいたら違いばかりを気にして止まってしまう気がして。ある種のあいまいさ、余白を残しておくってすごくいいかなって思うようになりました。Askaさんのサークルとかでは皆さんどんな感じ？

Aska セクシユアルマイノリティの人や、そうかもしれないなと思っている人に参加してもらって、読書会や映画鑑賞会を開催してなんですが、どんな感想を持つてるかも聞かないのでどうかな…。

中村 なぜセクマイサークルで活動をしようと思ったんです？

Aska 一番は自分のためです。どこにいても居心地が悪かったので、それなら自分で居心地の良い場所を作ろうと思って。学部1年生のとき、人が怖くなって引きこもっていたのですが、サークル活動を始めて



あすか
Askaさん
九大セクマイサークルarcus(あるくす)に所属し、読書会やおしゃべり会などの活動を行っている。

ひきた みく
疋田 弥紅さん
九州大学のアクセシビリティ・ピアサポーターで、障害の有無にかかわらず、みんな(peer)がより快適に過ごすことができるよう情報保障や学習サポート等の活動を行っている。

九州大学 芸術工学研究院
なかむら みあ
中村 美亜 准教授
専門は芸術社会学。表現活動が多様な個人や社会にもたらす変化やその仕組みを研究。ジェンダー／セクシユアリティに関する著作も多い。社会包摂デザイン・イニシアティブ 副イニシアティブ長。



人と会う機会が増え、少しずつコミュニケーションがとれるようになりました。「正規の大学生」ルートのようにいきませんが、**中村** Ask aさんが思う正規の大学生ってどんなイメージ？

Ask a サークル活動をエンジョイしながら、上手に大学の単位も取得している感じの学生かな……。

弥紅 私も同じイメージです。私はどこか学部の中では浮いている気がしてたんですね。だから、「普通の大学生活」が何かよくわからないけど、なんだか羨ましかった。**中村** 「自分は浮いているかも」と思っている人は、結構多いんじゃない？

弥紅 確かにそうかも。人が作っている枠組みにはまるって何だろうって思いました。**中村** 私自身、今は自分に合っていることをしているけど、行きたい学科に行けなかったこともあって、最終的に合うことを見つけたまでだいぶ時間がかかったんです。マイノリティとか関係なく、色んな型にはまることに皆もがいている気がします。とはいえ、みんなつらい思いをしながら頑張っていると聞かれると、マイノリティの立場にある人たちは、一緒にしないでほしいという思いがあるかも。このあたりどう思います？

Ask a マイノリティが社会構造的に生きづらいのは事実なので「みんな違ってみんないい」などと、聞き心地のよい言葉で語られると違和感を感じることはあります。**中村** そうした生きづらさはなかなか伝わりにくいですがね。例えば、男女格差の話をする時、女性専用の列車や割引などを例に出して、女性のほうが優遇されていると主張する人もいます。女性は、社会構造的に不利な立場に置かれていると説明しても伝わらなくて、難しいなあと感じます。

中村 最近よくイノベーションが大事というけど、新しい技術は異なるものが混ざって生まれることが多いんです。多様な人の意見を聞いて、面倒だなどと思う議論を重ねなければ生まれません。緊張ばかりしていてもダメだけど、多少の緊張関係が必要なんです。**弥紅** そうですね。現状維持に慣れてしまうと、苦労して新しいことに挑戦しようとは思わないんです。でも、組織によっては強固な考え方や枠組みがあって、新しい価値を認めてもらうのは難しいのではないのでしょうか。

中村 それは日本の組織の多くが抱える課題です。芸術工学研究院では「社会包摂デザイン・イニシアティブ」という組織を立ち上げ、多様な人々の能力を活かせる仕組みを考え、皆さんに伝える活動をしています。みんながポテンシャルを発揮できる仕組みを考えることが必要だと思っています。日本はこれから多様な人と議論を重ねる環境を大事にしていかなきゃいけないんじゃないかな。**中村** ところで、九州大学のLGBTsの皆さんへの対応をどう思いますか？

Ask a 通称名が使用できるなど、少しずつ制度を作ってくれているのですが、私たちの意見がまだ完全には反映されてないのかなと感じるところもあります。それから、制度を変える窓口が欲しいです！

中村 確かにそれはあるといいですね。色んな人が生活していく中で出てくる「どうにかしたい」ということを考えていくのがすごく大事ですね。**弥紅** 誰かが行動を起こすのって大事ですね。**中村** 私は、多様性の課題に正解はないと思うんですけど、上司が部下に威圧的に振る

ると違和感を感じることはあります。**中村** そうした生きづらさはなかなか伝わりにくいですがね。例えば、男女格差の話をする時、女性専用の列車や割引などを例に出して、女性のほうが優遇されていると主張する人もいます。女性は、社会構造的に不利な立場に置かれていると説明しても伝わらなくて、難しいなあと感じます。

Ask a サークル活動をエンジョイしながら、上手に大学の単位も取得している感じの学生かな……。



中村 確かにそれはあるといいですね。色んな人が生活していく中で出てくる「どうにかしたい」ということを考えていくのがすごく大事ですね。**弥紅** 誰かが行動を起こすのって大事ですね。**中村** 私は、多様性の課題に正解はないと思うんですけど、上司が部下に威圧的に振るると違和感を感じることはあります。**中村** そうした生きづらさはなかなか伝わりにくいですがね。例えば、男女格差の話をする時、女性専用の列車や割引などを例に出して、女性のほうが優遇されていると主張する人もいます。女性は、社会構造的に不利な立場に置かれていると説明しても伝わらなくて、難しいなあと感じます。

Ask a サークル活動をエンジョイしながら、上手に大学の単位も取得している感じの学生かな……。

弥紅 私も同じイメージです。私はどこか学部の中では浮いている気がしてたんですね。だから、「普通の大学生活」が何かよくわからないけど、なんだか羨ましかった。**中村** 「自分は浮いているかも」と思っている人は、結構多いんじゃない？

弥紅 確かにそうかも。人が作っている枠組みにはまるって何だろうって思いました。**中村** 私自身、今は自分に合っていることをしているけど、行きたい学科に行けなかったこともあって、最終的に合うことを見つけたまでだいぶ時間がかかったんです。マイノリティとか関係なく、色んな型にはまることに皆もがいている気がします。とはいえ、みんなつらい思いをしながら頑張っていると聞かれると、マイノリティの立場にある人たちは、一緒にしないでほしいという思いがあるかも。このあたりどう思います？

Ask a マイノリティが社会構造的に生きづらいのは事実なので「みんな違ってみんないい」などと、聞き心地のよい言葉で語られると違和感を感じることはあります。**中村** そうした生きづらさはなかなか伝わりにくいですがね。例えば、男女格差の話をする時、女性専用の列車や割引などを例に出して、女性のほうが優遇されていると主張する人もいます。女性は、社会構造的に不利な立場に置かれていると説明しても伝わらなくて、難しいなあと感じます。

中村 最近よくイノベーションが大事というけど、新しい技術は異なるものが混ざって生まれることが多いんです。多様な人の意見を聞いて、面倒だなどと思う議論を重ねなければ生まれません。緊張ばかりしていてもダメだけど、多少の緊張関係が必要なんです。**弥紅** そうですね。現状維持に慣れてしまうと、苦労して新しいことに挑戦しようとは思わないんです。でも、組織によっては強固な考え方や枠組みがあって、新しい価値を認めてもらうのは難しいのではないのでしょうか。

舞うのはよくないという人に、正しい振る舞いをやってみてもらおうと意外にできないんですよ。面白いことに、上司が部下の顔色を伺うような振る舞いをして立場が逆転してしまうんです。多様性はどこにも存在するし、100%みんなが幸せになることはないの、誰か一人だけ不利になるような状況を作らないことが大切だと思っています。注目したのが時間軸です。例えば、上司が部下に大変な仕事を頼んだとします。毎日一方的に頼まれれば部下は参ってしましますが、逆に部下が大変なときに上司がサポートしてあげれば、ギブ&テイクの関係が築けます。

弥紅・Ask a なるほど。**中村** よく学生と話していても、みんなが生き生きできる社会なんて無理だ、てなっちゃうんです。皆がいつも生き生きできるような仕組みを作れるようになれば、今はまだそんなないんだだけでも、そんなアイデアを考えていくことが必要だと思っんです。そのためにどういった環境を作るべきか、というのを日々考えています。九州大学は、自分をマイノリティと感じている人もそうでない人もお互いに尊重しながら学び、研究できる環境づくりを目指しています。九州大学の今後を期待してほしいですね。

Kyudai Information

九大セクマイサークル arcus(あるくす)
「セクマイサークル」とは、主に大学でLGBTQに関する活動をするサークルのこと。arcus(あるくす)は、九州大学の学生が運営し、LGBTsの当事者の居場所作りや交流を目的に、学内外で交流会などを企画・開催しています。
<https://arcus-qu.jimdofree.com>
Twitter https://twitter.com/arcus_qu

学生の性別違和を理由とする通称名使用
性別違和のある学生は、所定の手続きを行うことにより、学内において通称名(戸籍上と異なる姓名)を使用することができます。希望する学生は、事前にキャンパスライフ・健康支援センターに相談してください。
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/procedure/gender-dysphoria/>

社会包摂デザイン・イニシアティブ
多様な個人のポテンシャルを引き出すためのもの・サービス・組織などの「仕組み」のデザインを研究しています。健全な成長や、豊かさの新しい価値を生み出す社会づくりを先導する研究教育機関として芸術工学研究院で組織し、推進しています。
<https://www.didi.design.kyushu-u.ac.jp/>

九州大学LGBTsサポートガイド
九州大学は、性を理由に差別されたり、不利益を被ったりしないよう、LGBTsの学生や教職員をサポートしています。本ガイドは、LGBTsの学生やそれらの人たちを支える学生・教職員に向けて、基本知識や学内のサポート状況、相談窓口などを紹介しています。
<https://www.df.design.kyushu-u.ac.jp/lgbtsupport/>

九州大学キャンパスライフ・健康支援センター
学生・教職員に対する健康支援、心理支援、障害者支援などの業務を行う組織です。専門性を持つ5つの「室」で構成され、その一つ、インクルージョン支援推進室では、合理的配慮に関する相談対応や施設・設備のバリアフリー化、アクセシビリティ・ピアサポーターの育成に取り組んでいます。
<https://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/>

男女共同参画推進室
教職員・学生が、その個性と能力を十分に発揮できる環境の実現を目指し、関連講義、就業・就学環境整備、ライフイベント支援、研究力向上、意識改革などに取り組んでいます。2019年からダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修(SENTAN-Q)を開始しました。
<https://danjo.kyushu-u.ac.jp/>

WITH-Ü

「学び」を共有しよう！ 色々な体験ができるイベントを企画

教育学部3年生の浅原知生さんは、教育系の学生団体「WITH-Ü」の一員として、幼児から大学生までの幅広い年代の方とさまざまなイベントで関わりながら活動しています。

浅原さんが携わるイベントは多くあり、例えば糸島高校の2年生が糸島の課題とその解決策について考える「糸高志学」では、受講生が興味のあることをより深められるようサポートをしているほか、未就学児を対象とした「宇宙の学校」を開いてペットボトルロケットを飛ばすなど実際に見たり触れたりしながら、色々な体験ができる場所づくりをしています。幼児の時に触れたものや体験したことが、その後の興味や学びのきっかけになることもあるのではないかと浅原さんは話します。

活動で関わる相手は幼児から大学生まで幅広く、その中で浅原さんが共通して意識していることは、物理的にも心理的にも相手と目線を合わせることに。今回のインタビューでも、相手の視点を考えながら話す浅原さんの様子は、その姿勢が見えるようでした。



浅原知生さん
(教育学部 3年)



過去の
糸高志学の様子



宇宙の学校の様子

イベントは
幼児向けから
大学生向けまで
さまざま！

KYUDAI STUDENTS

2005年に始まり、
九州大学メイン
新天地で織りなす九大生と
広報室学生スタッフ

2018年に完了した
キャンパスの移転。
地域の皆さんのつながりを
が取材しました。

地域とつながる 九大生

FUKUOKA & ITOSHIMA

FUKUOKA

ITOSHIMA

べじもっく(モビラボ)

糸島の野菜を九大生に届ける 「動く八百屋さん」

糸島の農家から仕入れた野菜を小型電気自動車で九大周辺の人たちに配達するサービス「べじもっく」。

今年7月まで行っていたこのサービスは、人と物を同時に載せて収益向上を目指す「貨客混載」を、さまざまな交通サービスに応用するための実証と、周辺に店舗が少なく不便を感じている九大周辺の学生と、その近くの農家をつなげることが主な目的でした。

「べじもっく(モビラボ)」の代表責任者である鉄島大貴さんは運営を統括しながら、協力企業や大学、大学周辺の都市開発を推進する公益財団法人、そして農家さんなど、外部とも交渉を重ねていきました。その中で地域の方だけでなく地域に介入している企業や大学の方も利益度外視で協力してくださったことに鉄島さんは非常に助けられ、感動したそうです。

鉄島さんは今回の経験をもとに、今後はさらにサービス形態を応用させて、糸島に住む高齢者の生活の不便を解消していきたいと、九大だけでなく糸島全体を視野に入れた展望を語ってくれました。



べじもっくのメンバー



鉄島大貴さん
(モビラボ代表・
共創学部 3年)

糸島空き家プロジェクト

「ものづくり」好きの学生が 空き家を新しい空間に

主に建築学科の学生が所属し、糸島地域の空き家の改修に取り組んでいる団体で、「ものづくり」が好きな学生が集まり、設計から施工まで自分たちで手掛けています。

プロジェクトは、アパートをシェアハウスへ改修したり、駅舎へのトイレ設置など、学生とは思えない規模の大きさです。

彼らは建築学科の学生とはいえ、ほとんどが現場経験はありません。実際の現場で知識や肌感覚、判断力を身に付けることはもちろん、建設業界で働く卒業生や自治体の担当者と話し合ったり、地元の工務店の方に協力してもらったりと、地域の人も連携しつつ、まちづくりに関わっています。

今年3月には半年かけた「志摩師吉学生寮」の改修が完了。施工中、近所の姉妹が遊びに来てくれたり、そこに住む寮生と話すようになったりと、ひとつの物件から広がるつながりを実感したそうです。新しい依頼を受けた時は、「このプロジェクトが糸島に根付いているという喜びも感じる」と話すメンバーの皆さん。新しい空間づくりは彼らへお任せ！



石井香也子さん
(糸島空き家プロジェクト事務局長・
人間環境学部 修士2年)



西田仁誠さん
(人間環境学部 修士2年)



白石尚也さん
(人間環境学部 修士2年)



元岡国際交流ひろば

留学生の生活を支援する 学生ボランティア

九州大学の学生が、地域の方々と共に、九州大学に所属する留学生やその家族を支援する、ボランティア活動「元岡国際交流ひろば」。日本語教室や生活相談(現在は新型コロナの影響でオンライン)、菜園活動やハイキングといった、慣れない日本での生活がストレスとならないように配慮した支援活動を展開しています。

地球社会統合科学府の学生で日本語研究をしている梅本将司さんは、コロナ禍でも人との関わりを構築していくことを目的にこの活動を始めました。

参加される外国人の方とは、先生と生徒という関係性ではなく、互いに持ちうる知識を享受し合い、対等な関係で交流を深めています。また、同じくボランティアをされている地域の方々とも交流し、温かい気遣いや思いやり、地域の農作物に関する知識の深さも学んでいるそうです。

梅本さんは、この活動を通して学んだ、「相手に対する気配りの心」を大事にして、来年からインドネシアの大学で日本語教育に携わります。



梅本将司さん
(地球社会統合科学府
修士2年)



菜園活動の様子

この記事は広報室学生スタッフが取材しました！

林 萌英(理学部修士2年)
重永 日向子(共創学部4年)

陣内 未来(教育学部4年)
岡 祐里(文学部3年)

小川 竜矢(農学部3年)
中谷 優介(理学部3年)

周詞 美美香(共創学部3年)
藤井 裕加(共創学部3年)



オープンキャンパスでは、園芸学研究室のみんなと協力して研究室を紹介。

農学部 生物資源生産科学コース
農学分野 2013年卒業
生物資源環境科学府 環境農学専攻
修士課程 2015年修了

株式会社集英社 週刊少年ジャンプ編集部

頼富 亮典
より とみ りょう すけ

萎縮しないで
一歩前へ踏み出して

アート活動を通して
数学の魅力を伝えたい



理学部 数学科 2014年卒業 数理学府 博士課程 2018年修了

和から株式会社
数学講師兼チーフデザイナー／切り絵作家

岡本 健太郎
おか もと けん た ろう

頼富 大層な理由はないのです。週刊少年ジャンプをずっと購読していて、試しに受験してみたらありがたいことに採用になりました。就活の際、想像以上に九大への評価が高く、それが僕自身の自信にもつながって良い結果を得られた気がします。

理系出身で文系職の出版社への就職は珍しいと思うのですが、なぜ出版社を選ばれたのですか。

頼富 集英社の週刊少年ジャンプ編集部で編集の仕事をしています。雑誌の進行管理をする傍ら、担当する作家さんと一緒に作品の展開や設定などを考え、より読者に伝わる作品に仕上げています。現在2本の連載を担当しています。現在が、作家さんとの打ち合わせが一番緊張します。

大学ではどのような研究をされていたのですか。

頼富 園芸学研究室でアスパラガスの病気に対する抵抗性、耐病性の研究をしていました。

現在のお仕事について教えてください。

頼富 集英社の週刊少年ジャンプ編集部で編集の仕事をしています。雑誌の進行管理をする傍ら、担当する作家さんと一緒に作品の展開や設定などを考え、より読者に伝わる作品に仕上げています。現在2本の連載を担当しています。現在が、作家さんとの打ち合わせが一番緊張します。

頼富 地方の国立大学ということで九大にコンプレックスを抱いていました。今思えば、自分自身のコンプレックスを大学のせいにしていたのかもしれないですね。現在、九大時代の友人は各分野のエキスパートとして社会で活躍していますし、そのつながりに助けられることも多いです。九大生への期待は大きいと思うので、理系・文系の枠を超えて一歩踏み出してほしいと思います。

九州大学の学生にメッセージをお願いします。

頼富 編集部のミッションは、新人作家を発掘し、新連載を立ち上げてヒット作に導くことです。編集者の力量も問われますし目下の目標です。

将来のビジョンや目標は。

頼富 理系の知識が直接役立つことはありませんが、物珍しがられたり、アスパラガスの研究会を会話のきっかけにできたりしました。最初に担当したギャグ漫画では、作家が遊び心で、ヒロインがアスパラガスの豆知識を話すシーンを描いてくれたんですよ。嬉しかったですね。

大学で学んだことで、仕事に役立っていることはありますか。

岡本 まず、自分の好きなものと能力をいかに仕事に結びつけるかが大事です。その両方が伴わないと仕事は長続きしません。ぜひ、学生のときに、自分の好きなことや能力の可能性を広げておくことをおすすめします。

今後、挑戦してみたいことはありますか。

岡本 小さな作品が多いので、両手を広げるくらい大きな作品を作ってみたいですね。それと、いろんな定理をモチーフに切り絵作品を作り、数学の魅力を社会に広げたいと思っています。

好きなことも仕事にすると楽しくないと聞きますが、楽しみながら仕事をする秘訣はありますか。

岡本 アートの切り口から数学の面白さを知るきっかけになって欲しいと思います。本のおりに行えば誰でも絵を描くことができます。フルカラーで図案も多いので眺めるだけでも楽しいですよ。数学理解の一助になれば幸いです。

「アートで魅せる数学の世界」を出版されましたが、この本の魅力は？

岡本 アートの切り口から数学の面白さを知るきっかけになって欲しいと思います。本のおりに行えば誰でも絵を描くことができます。フルカラーで図案も多いので眺めるだけでも楽しいですよ。数学理解の一助になれば幸いです。

「アートで魅せる数学の世界」を出版されましたが、この本の魅力は？

岡本 アートの切り口から数学の面白さを知るきっかけになって欲しいと思います。本のおりに行えば誰でも絵を描くことができます。フルカラーで図案も多いので眺めるだけでも楽しいですよ。数学理解の一助になれば幸いです。



仕事でテレビ局の撮影に参加することも。

フジテレビ系「超逆境クイズバトル!!99人の壁」



聞き手

たなか ちほこ
田中 千穂子

農学部 生物資源生産科学コース
農学分野 3年

頼富さんにインタビューをさせていただいたことで、理系や文系といったくりに縛られすぎず、もっと自分の好きなことに素直になって何でも挑戦していいのだ、ということに改めて実感できました。たとえ自信が持てない状況であっても、自分で自分の限界を決めずに、まずはやってみるといふ勇氣を持ちたいと思います。



岡本さんの著書
『アートで魅せる数学の世界』
技術評論社 2021

2022年2月には福岡市の410Galleryで初の個展を開催予定。岡本さんの活動や作品はこちら
<https://wakara.co.jp/instructor/okamoto-kentaro>



聞き手

よねむら けんたろう
米村 拳太郎

数理学府 博士課程2年

今回、岡本先輩にインタビューさせていただく機会を得られたことは、非常に良い経験になりました。熱心に物事に取り組む姿勢や、細かいこだわりなど数学者に多い特徴と、社会人としての洗練された話し方が矛盾なく共存しており、我々数学徒の模範となる方でした。これからも、岡本先輩の新しい作品を楽しみにしております。



躍動

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。タイトルは取材に協力した各団体の代表者が書いています。個性あふれる手書き文字に、団体活動への熱意を感じます。

第74回 九大祭実行委員会

1年近くかけて、九大祭開催に向けて活動している「九大祭実行委員会」。近年は、天候や新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされてきましたが、今年はオンラインを最大限活用して、開催しました。あまり知られていない活動内容、中止が続いた中で今回のかけの思いを、開催を目前にして日々奮闘する皆さんに聞きました。



続けていくために、新しい挑戦を

取材協力 (写真左から)

- 小島 陸さん(委員長 理学部地球惑星科学科3年)
- 古屋 菜々子さん(事務局ステージ企画主任 経済学部経済経営学科3年)
- 長野 拓也さん(企画局芸能人担当 農学部3年)
- 谷口 愛実さん(企画局高校生ガイダンス担当 共創学部3年)
- 杉本 飛鳥さん(渉外局員 経済学部経済経営学科3年)
- 種木 峻翔さん(広報局長 工学部地球環境工学科3年)

小島 実行委員会において意識していることは、対面でのコミュニケーションが少ない分、なるべく多くの人が九大祭の運営に携わるようにすることです。一番の目標は、見てよかった、やれてよかったと思えるものにするということなので、当日まで頑張っています。

今年度は多くの事に配慮しつつ、できる限り大きな規模で開催できるように努力しました。これからの精神的に活動して参ります。来年度以降の対面開催の復活を楽しみにして下さい。

活動していく上での今後の目標や、読者の皆さんへのメッセージを教えてください。

小島 委員内でのコミュニケーションが、チャットやビデオ会議など、オンラインメインとなったのが難しかったです。文字だけだと感情が伝わりにくいため、仕事を振るときには言葉遣いに気を付けていました。

長野 対面の活動が無くなったことで、縦のつながりが薄くなって、なかなか一年生に仕事を振れなかった事です。来年委員を続けてもらえるように、通常1人で行う仕事も一緒に進めたいので、できるだけ多くの人に携わってもらおうようにしました。

今年オンラインを活用して開催されますが、難しい点や、工夫している点がありますか？

小島 普段生活していたら出会えなかったような人に出会える事ですね。色々な企業の社長さんや他大学の学祭実行委員会の方と話す機会がありました。学祭というものを通じて様々な人と関われる事が面白い事です。

古屋 九大祭の準備の時に、赤い法被を着ることができたのは嬉しかったです。

谷口 九大祭は学校の行事ではありますが、実際の企画・運営はすべて自分たち学生が行っています。大学生になって、こんなに大きな祭りを自分たちの手でやるというのは魅力だなと思います。

九大祭実行委員会の魅力は何だと思いますか？

小島 普段生活していたら出会えなかったような人に出会える事ですね。色々な企業の社長さんや他大学の学祭実行委員会の方と話す機会がありました。学祭というものを通じて様々な人と関われる事が面白い事です。

活動していく上でのモチベーションを教えてください。

古屋 事務局は、当日に企画団体が不安なくスムーズに活動することができるようになることが仕事です。そのため、責任感を持って頑張っています。

種木 パンフレットなど、広報局が作ったものはずっと残っていくのが嬉しいです。後世に自慢できるものを作ろうと思って制作しています。

杉本 先輩に繋げていくというのを一番に考えています。企業様との信頼関係をきっちり作ることによって、次の学祭の時に後輩が協賛活動を行いやすくなると思うので、それをモチベーションに活動しています。

どうして実行委員会に入ったのですか？

古屋 高校生の時にも文化祭の実行委員会をやっていたので、イベントを企画・運営することに對してとてもやりがいを持っていました。それよりも規模の大きな大学の学祭を成功させたという経験は、今後の人生の中で糧になるものだと思います。特に楽しそうだと感じた事務局に入局しました。

杉本 例えば渉外局は、企業様から協賛金集めをする局で、毎年80社くらいに連絡をしています。

長野 企画局では、芸能事務所の方とのやりとりを行って、トークショーのゲストを誘致しています。また、ミス・ミスターコンテストの運営も行っています。

普段の活動内容について教えてください。

小島 九大祭実行委員会は、委員長などの三役と、その下に5つの局が集まって構成されています。局ごとに活動を行っており、希望をもとに配属が決まります。

この記事は広報室学生スタッフが制作しました。



Facebook <https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student/>

Data

- ◎メンバー数：90名
- ◎活動場所：伊都キャンパス(現在はオンライン中心)
- ◎メンバーの学部や学年：学部1~3年生が所属している。(1年35人、2年24人、3年31人)
- ◎活動頻度：定例会が2週間に一度、それ以外は不定期

第74回 九大祭 公式アカウント



HP:
<https://kyudaisai.jp/74th/>



Twitter:
<https://twitter.com/kyudaisai>



Instagram:
<https://www.instagram.com/kyudaisai>



自由に海外渡航ができない今、「オンライン留学」が広がっています。実際に参加した九大生に留学体験を語ってもらいました。

オンライン編



大石 春陽 (おおいし はるか) さん
工学部物質科学工学科 3年
留学国: オーストラリア
留学先: クイーンズランド大学、
語学学校TAFE
(Technical and Further
Education)
期 間: 2021年8月23日～
9月24日 (5週間)



オンライン授業の様子

夏休みを利用してオーストラリアのクイーンズランド大学と、語学学校TAFEにオンライン留学をしました。実は、私はオンライン留学にネガティブな印象を持っていて、昨年オンラインで開講された短期語学留学は辞退したんです。しかし、その時に参加していた友人にオンラインだからその取り組みやすさや得られたことなどの話を聞き、留学後も継続して語学を学ぶ姿を見て、オンライン留学を前向きに考えるようになりました。また、今回のプログラムは1年生のときにも参加したのですが、当時は工学の理解が足りず、知識を定着させることができませんでした。だからもう一度参加して、工学への理解がどの程度進んだか、自分を試してみたいという思いもあつたのです。

クイーンズランド大学の授業では、現地の先生や博士研究員の皆さん、九州大学の先生などが自身の研究について日替わりで講義してくださいました。工学は幅広いので理解度に差がありました。一方、専門の応用化学に近い内容のものはしっかり理解できました。一方、TAFEは月々金曜日の午前中、毎日講義がありました。ディスカッションをする機会が多く、スピーキングスキルを鍛えられましたね。今回の留学の一番の収穫は、工学について自分がどこまで理解できているか確認できたことです。これは、大学院で研究を始めるときに役立つと思っています。どんな方法でも、まずは世界を見ることが大事です。ぜひ、オンライン留学にも挑戦してみてください。

世界から九大へ
九大から世界へ

世界を見なければ始まりません。
オンライン留学も一つの選択肢。

今回はヨルダン出身のアヤス・シャクール・マヒルさんに、九大や研究室の様子、休日の過ごし方などをインタビューしました。



Ayas Shaqour Mahr (アヤス・シャクール・マヒル) さん
出身国: ヨルダン・ハシェミット王国
総合理工学府 博士課程1年
ヨルダン大学卒業後、母国の電力会社でエンジニアとして就職。2年7ヶ月勤めた後、2019年4月文部科学省奨学金研究留学生として来日。半年間の研究生を経て、2019年10月九州大学総合理工学府修士課程に進学。本年9月修士課程を修了し、10月から博士課程に進学。

Q 九大を選んだ理由は?

勤務していた母国の電力会社が日本と協力関係にあり、日本で研修を受けた同僚などから話を聞いて留学を考えるようになりました。九大を選んだ理由は、日本の大学の中でもレベルが高く、私が学びたいと思っていたエネルギー環境工学分野を専門とするファルザネ・フマン准教授がいらしたからです。それに加えて、福岡の街の住みやすさもありました。

Q 研究室の雰囲気は?

研究室はとてもフレンドリーで、メンバーともすぐに仲良くなれました。留学当初は4人でしたが、現在は18人の大所帯。研究にはみんな真摯に取り組んでおり、毎週、会議を開いて進捗状況を話し合うなど、組織としてもしっかりしています。みんな研究へのモチベーションが高く、優れた研究ができています。

Q 九大で研究していることは?

ヨルダンはエネルギー資源の約97%を輸入に頼っています。その課題解決のために2つの研究テーマに取り組んでいます。1つは、ピークタイムの電力を最適配分することを目的とするビッグデータを利用した需要予測です。もう1つは、太陽光や風力など、再生可能エネルギーを利用した小規模なエネルギーネットワークの研究です。大小規模の異なる電力供給システムの研究を行っています。

Q 休日の過ごし方は?

ドイツ人の友人が免許を持っているので、コロナ前は車を借りて阿蘇や宮崎など、九州各地を旅行していました。近いところでは太宰府や宝満山。宝満山には3回も登りました。日本の文化的なお祭りやイベントにも参加しました。最近は遠出できませんので、天神や博多駅周辺のレストランなどで少人数での食事を楽しんでいます。

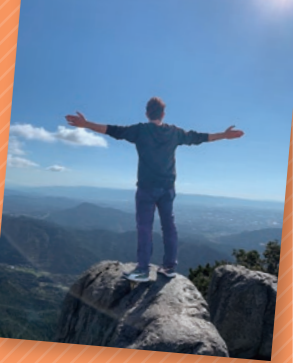
Q 九大で学んで良かったこと、成長できたことは?

良かったと思うのは、研究設備が揃う充実した環境で、希望する研究に集中して取り組めることです。また、どのように研究を進めて論文を執筆するか、そのためにセルフマネジメントをどうすべきかを身に付けることができ、研究者としても大きく成長したと思っています。期待どおりで非常に満足しています。

Q 今後の展望は?

短期的には、修士のときに余裕がなく習得できなかった日本語をもっと勉強したいと思います。博士課程の研究をする上でも日本語は大切だと思うからです。博士課程修了後は、日本の企業に就職し、現在の研究分野をより深めていきたいです。将来的には、日本とヨルダンの共同研究のようなプロジェクトを立ち上げ、両国の関係構築に貢献したいと思っています。

My Favorite!



宝満山、登頂!



世界各国の友人と天神のお祭りにて(コロナ禍前)



研究の様子

University Information



1909年に設立された、オーストラリアを代表する大学の1つで、世界の大学ランキング"QS University Ranking (2022)"で47位にランクされるなど高い評価を得ており、ノーベル賞受賞者も輩出しています。キャンパスがあるクイーンズランド州ブリスベンには亜熱帯性気候で、1年を通して温暖で過ごやすく、人口約230万人のオーストラリア第3の都市です。公共交通が発達しており、基盤の目状に整備された市内中心部は、移動しやすいのが特徴です。九州大学との大学間交換留学の協定校であり、ほぼ毎年九大生の派遣実績があります。また、九州大学工学部では短期留学プログラムQ²PECを毎年開催し(2021年度はオンライン)、九州大学との交流も年々深まっています。

祝 紫綬褒章受章 記念インタビュー

本学生体防御医学研究所の中山敬一主幹教授が、学問や芸術の分野において優れた業績を挙げた人に授与される紫綬褒章の令和3年春の受章者に選ばれました。今回は、中山敬一主幹教授に受章後の心境や研究者としての道のり、現在の研究のことなどを伺いました。

この取材は、2021年9月8日にオンラインで行いました。



振り返ってみると 人とは違う研究人生でした 違う道を選ぶ勇気を

初心を貫いて研究者の道へ。
大学院時代は孤軍奮闘

—紫綬褒章の受章おめでとうござい
ます。受章の感想をお聞かせください。

科学技術の研究者に与えられる賞はい
ろいろありますが、紫綬褒章は天皇陛下
から授与いただくものですので特別な思
いがあります。とても光栄に思っていま
す。

—細胞周期やタンパク質分解、プロテ
オミクスなど幅広い研究をされていま
すが、いつごろから研究者を目指され
たのですか。

父が医学研究者でしたので子どもの頃
から興味を持っていましたが、研究者の
道を意識し始めたのは高校卒業の頃です。
研究をするために東京医科歯科大学の医
学部に進学したのですが、臨床医の勉強
をする中で気持ちが揺らぎ、臨床医をし
ながら研究もできればと考えるようにな
りました。しかし、二兎追う者は一兎を
も得ず。中途半端だと医師としても研究
者としても一流にはなれないと気付き、
初心を貫く決意をしたのです。当時のク
ラスメイト80人の中で、基礎研究の道を選
んだのは私一人でした。

—大学時代、免疫学を専門に選ばれた
理由は。

もともと「がん」の研究をしたかった
のです。免疫のメカニズムをがん治療に
応用できないかと思っていました。しか
し当時は、がん免疫の研究など夢のよう
な話でしたので、免疫のメカニズムを学
ぼうと分子免疫学の研究室を選びました。

—順天堂大学の大学院に進まれたのは
なぜですか。

若く勢いのある先生のもとで学びたい
と思い、順天堂大学の当時まだ40代でい
らした奥村康教授の研究室を選びました。
大学院時代は実験三昧の日々。新しい研
究室だったので教える人がいなくて、自
分一人で考えて進めなければなりません
でした。苦勞しましたが、研究のすべて
を一人でやり遂げた経験は自信になりま
した。

留学先で研究成果を上げ、
帰国後は民間企業に就職

—大学院修了後に留学されています。
留学時代はいかがでしたか。

ワシントン大学のデニス・ロー教授の
研究室に留学し、特定の遺伝子の機能を
潰した実験用のマウス、いわゆるノック
アウトマウスをつくる研究を行いました。
当時、ノックアウトマウスは非常に難し

い技術でしたが、大学院時代に鍛えられ
ていたので、難しい技術も意外に簡
単に吸収できました。アメリカで研究し
ていると、肌感覚で世界のトップが見え
てきます。私もトップを目指して精力的
に論文を発表し、権威ある医学雑誌
「Nature」や「Science」にも掲載されるま
でになりました。ポストゲノムという、
時代の波に乗れたのは幸運だったと思っ
ています。

—帰国後は、大学ではなく民間の研究所
に就職されていますね。

一生アメリカで骨を埋めるつもりでい
たのですが、デニス・ロー教授が日本の
製薬会社の研究所の所長に就任したため
一緒に帰国することにしたのです。ここ
で初めて自分の研究室を持つことができ、
研究のテーマも、免疫学から現在の専門
である細胞周期にシフトしていきまし
た。民間はトップダウンですから、社長がO
Kと言えば何をやってもよくて、大学に
はないパワーを感じましたね。1996
年には「細胞周期の制御が体の大きさを
決め、その制御の破綻が発がんの原因に
なる」ことを世界で初めて実証しました。
これまでの私の研究の中で一番インパク
トのある研究です。これは、民間にいた
からこそ成功したと思っています。一方
で、民間企業は利益を追求しなければな
りません。研究についても次第に制約が
増えてきて悩んでいたころ、当時、本学
の生体防御医学研究所の所長でいらした

の生体防御医学研究所の所長でいらした

中山 敬一

九州大学
生体防御医学研究所
主幹教授

中山 敬一 プロフィール

- 1986年(昭和61年) 3月 東京医科歯科大学医学部卒業
- 1990年(平成 2年) 3月 順天堂大学大学院医学研究科卒業
- 1990年(平成 2年)12月 ワシントン大学医学部 ポストドクトラルフェロー
- 1992年(平成 4年) 3月 ワシントン大学ハワード・ヒューズ研究所 博士研究員
- 1995年(平成 7年) 7月 日本ロシュ研究所生物学部 主幹研究員
- 1996年(平成 8年)10月 九州大学 生体防御医学研究所 教授
- 2009年(平成21年) 5月 九州大学 主幹教授



高校時代はバンド活動も。ベースを担当



大学時代は硬式テニス部に所属。主将も務めた



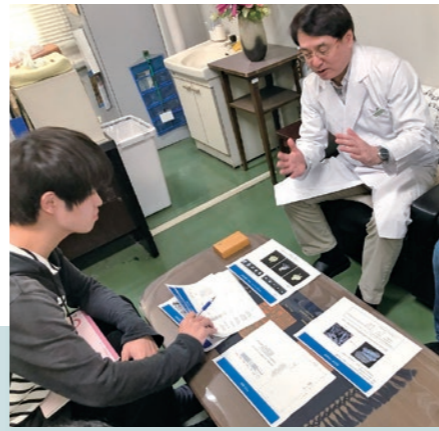
馬が好きで乗馬も嗜む。26歳のころ



工学系資料開示室全景

前号に引き続き、箱崎サテライトにある総合研究博物館の開示室の紹介です。今回は「工学系資料開示室」を紹介し、工学系資料開示室は、博物館の開示室整備に伴い2018年にオープンしました。標本の展示には「植物資料開示室」と同様、九大の新キャンパス移転に

伴い回収された歴史的木製什器を使用しています。見学者は部屋に入るとまず、独特な匂いに気づくと思います。実は展示室の半分は床に「木レンガ」を敷いています。これは、工学部機械学科知能機械システム部門の実習工場で、工作機械の周囲の床に敷かれ



研究室の学生と個別ミーティング

短期間で成果を期待できるテーマと、10〜20年という長いスパンで研究する挑戦的テーマの二本立てで研究を進めています。前者は現在の技術を使って解を探索する研究、後者は未来の技術をつくる研究

AIを使う 新しい技術の開発を研究

「現在は、どのような研究をされているのですか。」
「現在、どのような研究をされているのですか。」
「現在は、どのような研究をされているのですか。」

です。私は留学時代、ノックアウトマウスの技術で他者を圧倒してきましたが、今では誰でもできる技術になっていきました。技術はいつか古くなります。自分のストロングポイントが失われるため、また新しい技術を見つけないければなりません。私の研究でいえば「次世代プロテオミクス」の技術がそれです。タンパク質を網羅的に、しかも高速で定量できるシステムで、20年かけてやっと今花開きました。既にこれを利用したビジネスも生まれています。他に、5年ほど前からAIを活用した新薬開発の研究にも取り組んでいます。薬は簡単に言えば化学物質です。ほとんどの場合、何かのタンパク質と結合して薬の作用が発揮されるため、ターゲットとするタンパク質が、どの化学物質と結合するかがわかれば新薬を作ることができます。しかし、化学物質の種類が膨大で、すべての化学物質を試すのは困難なことでした。そこで、AIを使って化学物質を探る技術を開発しています。

人に流されず、自分の頭で考え、 勇気を持って歩んでほしい

「次代を担う研究者の育成にも力を入れていってほしいですね。」

研究が本業ですが、同じくらい教育にも力を入れています。これまでに私のラボから15人の教授を輩出しました。目標は、退官までに25人の教授を輩出するこ

箱崎だより

～工学系資料開示室の標本資料～
「技術者の遊び心」

九州大学総合研究博物館 准教授
中西 哲也



色鮮やかな冶金関連標本

ていた物です。実際には木目を縦に使用し隙間に砂を撒く事で、こぼれた機械油を吸収していました。工学系という名称ですが、実際は様々な分野の実験器具等を展示しています。顕微鏡や精密天秤、手回し計算機、ジャイロスコープなど。その他、現在は釜山で使用された灯火や酸素マスク、顔料として使用された精錬副産物なども紹介しています。

特に珍しい展示物としては、島津製作所製の実験用陰極線管(燐光管)が挙げられます。本学医学部の保健学科で収集・保管されていた歴史的X線管コレクションの一つです。1890年代末にX線が発見され、X線を



実験用陰極線管(右は電極を拡大したもの)

用いた治療や研究は当時の最先端でした。九州大学の初代総長の山川健次郎は物理学者で、東大時代にはX線研究にも取り組んでいました。燐光管は高真空の放電管で、電子が燐光物質を塗布した電極に衝突する事で、電極が光ります。展示の燐光管では、電極が精巧な造花になっており、とても幻想的な光り方をしていた事が想像できます。単なる実験器具の製作に留まらない、日本の技術者の遊び心がよく現れています。

とです。私のラボは厳しいことで有名なのですが、それをわかった上で私のラボを選んだ学生は、勇気を持って人生の選択に臨んでいると思います。そうした学生の思いに報いたいと思っています。現在の医学は、今から20〜30年前の基礎研究の成果です。自動車メーカーが次世代の車を作っているように、医学研究者も未来の医学を作っているのです。また、コロナ禍でわかったように、健康が脅かされると社会が一変してしまいます。だからこそ、医学の研究はしっかり行う必要があるのです。例えば、がんを完治できる治療法を見つけることができれば、何十億という人の命が救われます。毎日患者さんを診察するのも尊いことです。が、人類に大きな利益をもたらす研究に挑戦する学生ももっと増えてほしいと思います。できれば医学部のトップ1〜2割の学生は研究の道に進んで、オリジナリティを発揮してほしいですね。立派な羽を持っているのに飛ばないのはもったいない。研究は面白いですよ。



「最後に本学の学生や研究者の皆さんにメッセージをお願いします。」

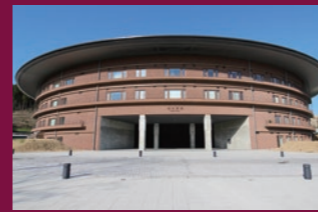
振り返ると私は、他人とは違う経路をたどってここまでできました。他人と違う道を選ぶのは怖いですが、勇気が必要です。最近の若い人はリスクをとりたがりませんが、リスクをとらなければリターンもありません。一度しかない人生です。自分の頭で考え、勇気を持って、充実した人生を歩んでほしいと思います。

※2021年9月27日付け研究成果プレスリリース「人工知能であらゆる疾患の治療薬を見つける方法を開発」
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/667>



九州大学基金

—未来を切り拓くリーダーの育成—



椎木講堂

寄附者
ご芳名

九州大学基金の趣旨にご賛同いただき、多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。
本号では、令和3年4月6日から令和3年8月31日までに寄附申し込みいただいた皆様のご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。今後とも九州大学基金をよろしくお願い申し上げます。

須藤 信行
関口 興洋
先立 真紀
仙波 秀子
善福 勉
曾根崎 和夫
園田 康平
空 政道
大長 陽子
高石 雅明
高倉 修
高津 鶴己
高橋 太
高橋 学
瀧井 正人
宅間 早英子
竹内 紳也
館 雅之
田戸 亨
田中 秀臣
田中 杏奈
田中 茂
田中 節男
田中 孝夫
棚橋 徳成
田邊 圭二
崔 正剛
千々岩 武陽
陳 泓儒
津崎 慎二
辻 裕美
土本 晃裕
土谷 一弘
筒井 伸一
津村 忠幸

鶴崎 新一郎
鶴留 佳代
寺本 徹
寺本 憲史
銅直 春雄
徳田 賢太郎
徳永 寿幸
徳山 世雄
所 昭宏
戸島 信一
富岡 光直
友杉 貴一
外山 靖朗
豊原 昌樹
豊村 研吾
鳥越 達也
鳥巢 久美子
鳥巢 剛弘
永井 治彦
中井 吉英
中川 尚志
中島 匠一
中島 浩範
中島 康晴
仲曾根 昇
永田 頌史
中西 常道
中野 敏昭
中野 光男
永松 文夫
中道 智美
中村 晋之
中村 健太
中村 高志
中村 直寿

中村 博樹
中村 雅史
中本 洋介
中山 英二
中山 沙穂
中山 高志
中山 正登
橋崎 洋
成清 耕一
南條 貴哉
西嶋 勝之
西田 慎二
西原 智恵
西村 勝彦
西山 俊一
新田 由規子
野口 裕行
野口 洋一
野崎 剛弘
野田 公樹
橋口 悦子
橋爪 誠
橋本 和人
波多 伴和
島山 重孝
馬場 秀夫
浜崎 修
濱田 茂仁
濱田 盛承
羽矢 勝美
早木 郁人
林 俊行
林 吉夫
林田 周三
原 重充

原田 一郎
原榎 孝志
東 輝寿
東 みどり子
東 豊
東 ゆみ
樋口 一也
久枝 良雄
久野 孝子
久村 正也
日高 照幸
日高 三喜夫
平井 正剛
平川 洋一郎
平田 陽一
平塚 昭仁
平畑 克敏
平本 哲哉
平山 健司
平山 陽介
廣山 夏生
フアウルクス 章子
(糸島青年会議所)

古川 琢磨
古川 貞二郎
古野 裕史
豊東 翼
堀内 孝彦
本多 典子
前田 克美
正木 千栄
増本 道子
増輪 一彦
増輪 祐子
町田 英世
松江 要
松枝 佳奈
松尾 和正
松尾 哲也
松岡 重孝
松本 敏浩
松熊 功
松隈 祐太
松下 克之
松田 美穂
松野 雄一
松延 誠
松林 直
松原 慎
松村 晶
松本 清
松本 浩二朗
松本 孝
松本 林
的場 優
水上 眞眞
峯浦 和幸
宮口 みどり

宮下 智恵子
宮田 寿望
宮田 正和
美山 英治
宮村 通典
向田 達彦
村上 京子
村田 晃
村塚 幸穂
(九州大学医学部
同窓会柏屋支部)
村林 勇紀
村山 正治
村山 幸代
森 章人
森 哲哉
森 良信
森下 浩延
森園 哲夫
森山 智彦
屋我 嗣良
山浦 健
山崎 信行
山下 愛子
山下 和海
山下 賢治
山下 毅
山下 真
山城 康嗣
山田 麻美
山田 公政
山田 修司
山田 俊輔
山田 毅彦
山部 鉄朗

山本 貴義
山本 直
山本 碩徳
山本 幸男
横田 欣兒
吉儀 利彦
吉田 泰彦
吉田 ゆかり
吉田 陽子
吉原 美紀
吉原 里奈
淀川 一憲
李 希
笠 邦彦
Robert Huang
和田 修二
和田 信一郎
渡邊 啓一
渡邊 信生
渡辺 弥

ほか匿名希望156名
(計542名)

●お問い合わせ
九州大学総務部同窓生・基金課
〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL:092-802-2150
E-mail:k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp
Webサイト:https://kikin.kyushu-u.ac.jp/

「支援者の皆様」

企業・団体など

医療法人上野病院
イオン九州株式会社
医学部同窓会柏屋支部 医療法人志方医院
株式会社小野原製茶問屋
株式会社はせがわ 相談役 長谷川 裕一
糸島青年会議所
株式会社夢工防
株式会社サザホラヤ
九州大学医学部婦人科学産科学教室
黒川内科
佐久総合病院
Golf&Bar Rosa Brillante
医療法人社団中島整形外科
箱崎商店連合会 はこぎ駅前食堂
前田耳鼻咽喉科医院
松浦クリニック
ほかに匿名希望2団体(計21企業・団体)

個人
粟生 修司
赤司 浩一
赤峯 悦生
秋貞 勝彦
秋武 昌平
芥川 隆
吾郷 哲朗
朝野 聖園
浅海 浩
天野 悦雄
雨宮 直子
荒木 けい子
荒殿 誠
安野 広三
飯田 宏
飯塚 信智
池田 稜子
池見 隆男
伊澤 敏
石井 美美子
石川 俊男

石田 健
石橋 慎一郎
石橋 達朗
石橋 由美子
石橋 和三
石橋 渡
井手口 忠光
出口 喜也
出光 一哉
伊藤 健一
伊藤 孝信
伊東 正博
稲光 哲明
井上 元
井上 賢一
井上 紀子
井上 善仁
井原 公輔
井原 恵子
入田 和男
岩城 理恵
岩下 久子
岩下 洋一
上野 俊幸
上野 龍一
上原 啓志
上山 あゆみ
牛房 良嗣
有働 幸弘
梅田 文夫
梅田 瑞恵
梅野 淳嗣
占部 宏美
江口 和也
江崎 浩夫

衛藤 蒸二
江森 節子
大隈 俊明
大島 彰
大谷 弘行
大森 春代
大山 浩恵
岡 孝和
岡 知史
岡田 隆雄
岡田 宏基
岡本 育久
岡本 敬司
小川 利晴
奥村 大吉郎
小田 義直
乙成 淳
鬼塚 いづみ
斧澤 英城
景山 政之
笠屋 千晶
鍛冶 静雄
梶原 健司
片山 忠
桂 浩一
加藤 憲司
金沢 文高
金子 昌信
兼松 正
神谷 佳織
栢森 裕三
河合 啓介
川上 幸弘
川崎 啓祐
河田 浩

川浪 悟
川村 治子
川邑 正男
菊川 律子
岸 厚至
北園 孝成
北野 三郎
木附 康
木寺 敬一郎
木原 節子
木原 廣美
岐部 征賢
木村 菊子
木本 太
清原 和也
久保田 哲也
熊井 三治
久山 順一
倉成 賢治
黒岩 雄二
古閑 日出見
國分 英臣
児島 達美
小手川 勤
後藤 篤
後藤 和彦
後藤 健一
小林 伸行
小牧 元
小松 利光
小宮山 博朗
権藤 元治
齋藤 賢爾
齋藤 将仁
齋藤 雄

細波 隆
佐伯 幸則
酒井 栄治
坂田 一矩
坂元 光輝
佐々木 尊光
笹栗 聖子
佐矢 卓哉
澤本 良子
三海 和広
四海 雅子
鹿田 聖香
志方 建
(九州大学医学部
同窓会柏屋支部)
重徳 良夫
志多 武彦
柴田 弘俊
柴田 誠之
嶋村 睦夫
清水 美希
志村 翠
下條 信行
首藤 由江
庄島 洋一
城野 裕
新谷 安則
新宅 浩雄
末松 弘行
菅原 英世
杉田 峰康
杉野 和記
須崎 邦夫
鈴木 健司
須藤 桂子

東京

東京同窓会 Summer Festa2021を振り返って

東京同窓会恒例の夏祭り“Summer Festa”を8月28日に開催した。コロナの状況下、今回はワクチン接種済者はホテル会場から、そうでない人はZoomでとハイブリッド型を考えていた。企画メンバーは20代の若手を中心に10名で構成。6月から準備を開始。毎年、その時々々の世情に合ったテーマを考え、それに沿って企画をしていくが、今回は“超える・支え合う・知り合う”とし、内容を固めていった。8月頭になって緊急事態宣言延長を受け、ホテルでの開催を断念。Web開催1本に急遽変更。ただ昨年もZoomで開催したので、その後は企画もスムーズに流れた。今回のメインは海外や福岡といった遠隔地と繋いだ“超える”企画。上海・ロンドン・ハノイ・サンパウロ、そしてスーダン。ハノイからは九大ベトナム同窓会の方々にもご参加頂いた。どの街ともスムーズに繋がり改めて便利になったことを痛感。福岡からは来年の東京公演を控えた九大フィルの皆さんにもご登場頂いた。総じて、上手くいったように思うが、ブレイクセッションで一部参加者の長話など課題は残った。来年はコロナ時に培った手法も加味し、ホテル会場に集い、お酒も酌み交わしながら楽しい会に出来たらと願っている。

東京同窓会事務局長 榎崎光雄(昭和46年・法学部卒)



Summer Festa2021 記念撮影

Contact info.

九州大学東京同窓会事務局
E-mail : kyudaitokyo@gmail.com

CEO

九州大学CEOクラブ総会オンライン総会

令和3年6月24日(木)、九州大学CEOクラブ総会をオンラインで開催しました。九州大学CEOクラブは、企業のCEOとして活躍する同窓生の組織として、平成30年2月に発足し、会員間のネットワーク拡大・強化、九州大学の教育活動等の支援等を目的として活動しています。コロナ禍のため、昨年度に引き続きオンライン開催となりました。

石橋達朗会長(九州大学総長)挨拶、運営委員会委員の紹介、今後の本クラブの活動、九創会の発足についての説明等が行われました。

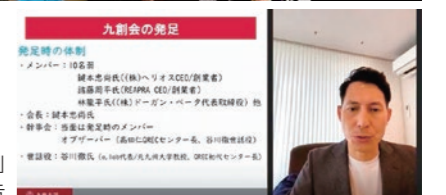
講演&パネルディスカッションでは、谷川幹事の進行の下、講師の荒川豊教授(九州大学大学院システム情報科学研究所)から「ICT技術でいかにして人の行動を変えるか」と題し講演いただいた後、パネルコメントの野口岳氏(iQ Lab共同代表(株式会社iMago)/21世紀プログラム課程4年)から自ら携わったプロジェクト等の紹介があり、パネルディスカッションを通じて会員間の交流を深め、盛会のうちに閉会しました。

総会閉会後は、希望される会員・大学執行部等による30分間の懇親タイムも実施しました。

今後、本クラブは、ネットワーク拡大強化、九州大学の教育活動の支援に向け活動を進めていきます。本クラブに関心のある方は、HPをご覧の上、事務局までお気軽にお問い合わせください。



会議の様子



「九創会」発足の報告

Contact info.

九州大学CEOクラブ事務局(総務部同窓生・基金課内)
E-mail : ceo-club@jimukyushu-u.ac.jp
https://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/236

福岡

令和3年度 九州大学福岡同窓会

福岡同窓会は、九州大学の所在する福岡において、全学的な卒業生及び修了生等の親睦を図るとともに、同窓生意識の醸成、情報交流の場を活性化させ、九州大学の発展に寄与することを目的として、平成23年4月に発足しました。

当会では、アカデミックフェスティバルを九州大学と共催し、福岡同窓会の同窓生が「トークショー」に登壇したり、交歓会を開催して同窓生の皆様と親睦を深めたりと、さまざまな参画を行ってまいりました。

例年、アカデミックフェスティバルの中で福岡同窓会総会を開催しておりますが、今年度は、アカデミックフェスティバルは新型コロナウイルス感染症(流行)の影響でWeb上での開催となりましたので、この紙面掲載をもって総会に代えさせていただきます。

なお、令和2年度の決算は会計監事による監査で適正であると判断され、議題2件につきましては幹事会・役員会で審議の上、承認されておりますことを申し添えます。

福岡同窓会会長 眞正義(昭和43年・経済学部卒)



アカデミックフェスティバル2021 貴会長ご挨拶(Web・共催)



ホームカミングデー交歓会懇談の様子(2019年共催時)

Contact info.

九州大学福岡同窓会事務局
(九州大学総務部同窓生・基金課内)
E-mail : doso-fukuoka@jimukyushu-u.ac.jp

議題1. 令和2年度事業報告について

- 7月22日 幹事会(書面)
- 8月7日 役員会(書面)
- 9月19日 アカデミックフェスティバル2020の例年通りの開催は見送り、開学記念行事に企画の一部を組み込む形で開催、福岡同窓会眞正義会長から来賓挨拶
- 11月 福岡同窓会総会(九大広報120号紙面にて開催)

議題2. 令和3年度事業計画について

- 6月15日 幹事会(書面)
- 7月29日 役員会(書面)
- 11月16日 アカデミックフェスティバル ~29日 2021(Web開催)共催
- 11月~ 総会
- 12月予定 (九大広報123号本紙面)

連合会

九州大学同窓会連合会オンライン総会

令和3年7月27日(火)、九州大学同窓会連合会総会をオンラインで開催しました。九州大学同窓会連合会は、部局同窓会と地域同窓会の連合体組織として、会員である同窓会間の全国的交流、連携を推進することにより、九州大学の卒業生の交流、親睦を図り、併せて九州大学との連携を緊密にすることを目的として、平成11年に設立されました。

現在、部局同窓会16団体、地域同窓会24団体の計40団体が加盟しています。毎年総会を開催して同窓会同士の情報交換の場を設けており、今回はコロナ禍のため初のオンライン開催となりました。

石橋達朗会長から、「九州大学の近況について」と題して、昨年10月の総長就任以降に力を入れているガバナンス・研究・産学官連携に関する主な取り組み、大学のコロナ対策の現状、箱崎キャンパスの跡地の一部を「箱崎サテライト」として整備を進めていること等について紹介がありました。

久枝良雄代表幹事の進行により、役員交代、アカデミックフェスティバル2021についての報告、令和2年度事業報告及び収支決算、令和3年度事業計画及び収支予算(案)、プライバシーポリシーの一部改正等について議論を行いました。

また、「コロナ禍における同窓会活動について」と題して、法学部同窓会、東京同窓会、関西同窓会、ありあけ九大会、松の実会、在中国九州大学同窓会の各同窓会から好事例をご紹介いただき、活発な意見交換と事例の共有を行うことができました。



参加者の皆様



石橋会長挨拶

Contact info.

九州大学同窓会連合会事務局(総務部同窓生・基金課内)
E-mail : sycdo-rengo@jimukyushu-u.ac.jp
https://doso-rengo.jimukyushu-u.ac.jp/

お問い合わせ

九州大学同窓会連合会事務局(総務部同窓生・基金課内)
TEL:092-802-2156 E-mail:sycdo-rengo@jimukyushu-u.ac.jp

同窓会の情報はこちらへ!

九州大学同窓会連合会ウェブサイト
https://doso-rengo.jimukyushu-u.ac.jp/



九州大学同窓会連合会 検索